

梶山歴史文化館ニュース

Vol. 20

2018. 12. 12

■ ■ ■ 梶山の教員「著書展」開催—先生方の著書から学ぼう！ ■ ■ ■

歴史文化館館長 梶山美恵子

この度多くの先生方にご協力をいただき、先生方の「著書展」を開催しました。先生方には、単著・共著・監修・論文の抜き刷り等、形を問わず、また発行年を問わず、一冊のみのご提出をお願いし、内容の紹介を300字以内でまとめていただきました。

この企画展の趣旨は、学生の皆さんに、身近な先生方の研究を紹介することによって興味関心の幅を広げ、今後の勉強や研究に役立ててもらう機会を提供することにあります。先生方の著書を実際に手にする機会は意外に多くないのではないのでしょうか。この企画展の場で、自分の学部に限らず広くさまざまな分野の研究の著書に触れ、自己啓発の機会の一つにしていいただければ幸いです。

歴史文化館では設立の趣旨の一つとして「学園に関係する人々の文化の交流ができる場とする」ことを挙げていますが、この「著書展」が学園の教師・学生・生徒相互の学術・文化の交流の場となるとともに、同窓生や一般の方々にも、今の梶山の学術・文化を知る機会にしていいただければと思います。ぜひ足をお運びください。



梶山の教員「著書展」

会場 梶山歴史文化館(大学中央図書館4F)
期間 2018年11月14日～2019年6月26日
時間 毎週水曜・金曜 10:00～17:00

企画展 梶山の教員「著書展」 開催

【会場】	梶山女学園歴史文化館(図書館4F)文化展示室
【期間】	2018年11月14日～2019年6月26日
【開催日時】	毎週水曜日・金曜日 10:00～17:00

■ 「金剛鐘」を“永遠”に—専門業者の調査からわかったこと— ■

歴史文化館館長 梶山美恵子

平成30年8月末、青銅器製造で有名な富山県高岡市の代表的な会社、老子（おいご）製作所の取締役・営業部長の定塚康男氏に金剛鐘の調査をしていただきました。

このような調査をするに至ったのは、「糸菊」（平成29年号）の拙文で紹介したように、金剛鐘（カリヨン）は国内ではおそらく一番古く、また、本学園のような形で演奏されているのは国内だけでなく海外でも「他に例を知らない（ベルギー在住のカリヨン奏者松江万里子氏）」という貴重な存在であることが分かり、これからも永く梶山女学園の象徴であり続けてほしいと改めて深く感じたことがきっかけです。1931年（昭和6年）に設置されて以来87年間奏鳴されてきた金剛鐘。その鐘の音が途絶えることがあってはなりません。鐘の状態は今どうなっているのか、問題が生じていないと思われる今のうちに調査をしておく必要があると考えました。学園には鐘の詳細についての資料は全く存在していないため、鐘の成分、音の周波数などの基本的な事項から調査できる専門業者に依頼することにしました。

インターネットであれこれ探した結果、「老子製作所」に行き着きました。調査の依頼に対して「調査を専門にしているわけではないので費用をいただくわけにはいかないが、出張の途中で立ち寄って調べてあげましょう」という思いがけない返事をいただきました。そしてあの異常な暑さの中、高岡市から山添キャンパスまではるばる足を運び、金剛塔に登って1時間以上かけて調査をしてくださったのです。

ハンディタイプのX線装置を用いての成分分析調査や、実際に10個の鐘の一つひとつ鳴らしての周波数測定で、さまざまなことが分かってきました。後にいただいた「報告」の詳細については、「糸菊」（平成30年号）で紹介する予定ですが、当日おおよそ以下のような説明をいただきました。

- ・ 金剛鐘は鑄造技術がよく、鐘表面にピンホールなども見当たらない。音を響かせるために錫の割合が多い。錫の含有量が多いと割れやすいが、金剛鐘は肉厚になっているので割れにくい。
- ・ 鐘の内側、振り子とぶつかる箇所は多少の凹みがあるが、長年の使用の割には凹み方が少ない。手動で鍵盤を押さえているため鐘本体への衝撃が軽減されている。
- ・ ただし、同じ箇所に衝撃を与え続けると金属疲労が貯まり、いずれはクラックが入り割れる原因になるので、定期的に鐘本体を135度位回転させ、打鐘箇所を変えたほうが割れ予防になる。
- ・ 鍵盤の根元に緩衝材などを置き鍵盤を強く押し込めなくするのも予防になる。



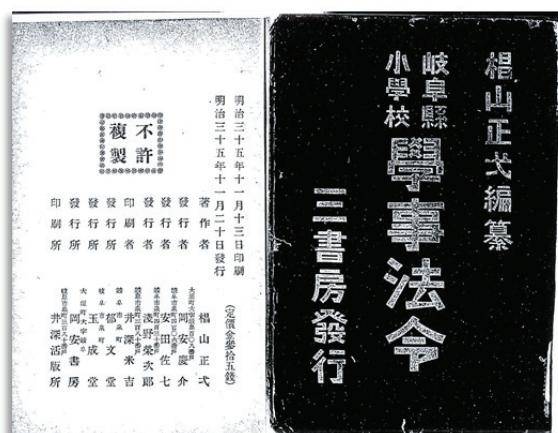
調査の最後には、「金剛鐘」は希少価値が高い鐘でいずれは文化財等、歴史に残るものだというコメントもいただきました。今回の調査はおそらく金剛鐘設置以来、初めての調査であったと思われます。今後この調査結果を生かし、金剛鐘を“永遠”の鐘にしていきたいものです。

■ 梶山正式学園創設者の青年時代の著書 ■

11月より、現職の先生方の【梶山の教員「著書展」】が開催されていますが、この開催にちなんで、梶山正式先生の著書を一冊紹介します。

正式先生は明治30年、18歳の時、岐阜県の尋常小学校正教員となりますが、その後岐阜県教育会（現在の教育委員会に相当する）の一等書記官になり、『岐阜県小学校学事法令』を編纂しました（明治35年11月20日発行）。この書籍は現在東京の「国立国会図書館」の近代デジタルライブラリーにあるのみで、学園を含め他では見るできません。

当館では数年前にこのコピーを取り寄せ、装丁をして「歴史文化館」の「正式記念室」に展示しました。文化展示室の【梶山の教員「著書展」】と併せて正式先生の書籍もご覧ください。



■ 体験型展示資料を製作中 ■

文化情報学部准教授 見田隆鑑

現在、平成30年度学園研究助成金（B）の研究課題「梶山歴史文化館における体験型展示の導入とその展示効果の検証」（研究代表者：文化情報学部准教授 見田隆鑑）の一環として、見学者が展示資料を見て学ぶだけでなく、実際に体験して学ぶことができる展示資料の製作を進めています。

その一つに、昔の梶山女学園高等学校の制服の試着体験があります。毎年、学芸員課程の授業で行っている学生による展示評価では、“展示されている制服を実際に着てみたい！”という要望が以前から多くありました。ただ、現在展示してある制服は展示用に作られた資料であり、通常の制服では展示室内での更衣が難しいことから、服を着たままで試着できるような工夫を凝らした体験用の制服として、裁縫女学校時代の制服（袴）と梶山高等女学校時代の制服を現在製作しています（写真は試作品）。



完成後は、梶山歴史文化館で実際に着てみたり、写真撮影もできるようになります。新しい体験型の展示資料をどうぞ楽しみに！

■ 「正式記念室」を正式先生がご案内！ ■

歴史文化館の最上階、螺旋階段を上った部屋は学園創設者夫妻の居室を再現した空間になっています。時代をタイムスリップして夫妻の生活を感じとることができるこの部屋の入口に、この度正式先生ご自身が登場！

“「正式記念室」の入口が分かりにくい”という学生からの声により、平成30年度学園研究助成金(B)の研究課題「栢山歴史文化館における体験型展示の導入とその展示効果の検証」(研究代表者:文化情報学部准教授 見田隆鑑)の一環で制作しました。

等身大のパネルを設置することで、誰が見ても分かりやすい目印となりました。また、等身大であることから実際の背丈など正式先生について、よりイメージを膨らませることができるのではないのでしょうか。

また、前号のニュースでもご紹介しましたが、「正式記念室」では金剛鐘を演奏している場面と設置されている様子の大型パネル、さらには金剛鐘の鐘の音を聴くことができる機器も設置してあります。

より充実した「正式記念室」にて来館者をお待ちしています。

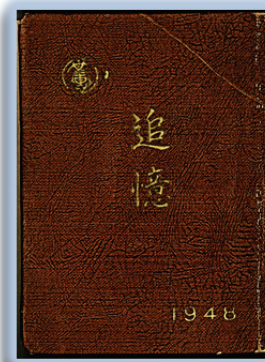


■ 栢山女子専門学校 「昭和23年卒業記念アルバム」の寄贈 ■

昭和3年生まれの丸子貞子さん(旧姓渡辺)からの寄贈です。被服科の吉田俊恵先生が恩師だったとのこと。現在90歳ですがお元気で、病院で長年ボランティアもされるなど活躍されています。

栢山女子専門学校時代の資料は大変少ないので、当館の貴重な所蔵資料になりました。その他、写真類6点の寄贈がありました。

また、昭和19年3月栢山第一高等女学校卒業の桜井可ね子さん(旧姓塚本)のご子息の桜井啓一さん(神戸市在住)が可ね子さんの女学校時代のアルバムを持って来館され、館の方で必要な写真はコピーしてくださいとの申し出を受け、アルバムを預かりました。



【編集後記】

企画展「生活環境デザイン学科 卒業研究作品展」では多くの方に足をお運びいただきました。ご協力くださった先生方、学生の皆様に御礼申し上げます。

現在、企画展【栢山の教員「著書展」】を開催中です。多くの先生方の著書を実際に手に取ってご覧いただくことができます。足を運んでいただければ幸いです。

栢山歴史文化館ニュース 第20号

発行日 2018年(平成30年)12月12日

編集・発行 栢山女学園歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

TEL 052(781)1186(代)

052(781)4590(直)

編集担当者 栢山美恵子 村瀬輝恭 村瀬示帆